

古代社会の連続

近代産業からみる古代集落と現代都市からみる古代道

—上州蚕糸業と絹流通構造を事例として—

古代集落 蚕糸業 古代道 絹流通 近現代 上州

【序論】

第一章 本研究について

□研究目的

『和名類聚抄』(註1)に記載される地名の現在地比定により、利根川上流域において現代日本における古代社会の影響があることが指摘されている。(註2)

利根川上流部は、かつて上州と言われた群馬県の地域で、近代において蚕糸業が盛んな地域であったが、現在では衰退している。しかし、上州蚕糸業の重要な点は近代のみではないと考えられる。

1, 近代以前の時代について

上州の蚕糸業伝来は弥生時代中期頃とされ、近代以前にも蚕糸業が存在したと考えられる点。

2, 近代以降の時代について

鉄道草創期に上州と横浜は鉄道によりいち早く結ばれ、現在でも利用されていると考えられる点。

この2点から、上州地域は地名だけでなく蚕糸業・交通においても古代から現代に影響していると考えられる。そこで、上州蚕糸業と絹流通構造を事例として、近代産業から古代集落をみることと現代都市から古代道をみることを試みることによって、古代社会の連続を明らかにしていくことが目的である。

□研究方法

本研究では、上州蚕糸業と絹流通構造の巨視的分析と微視的分析を行うことで考察を行う。

第二章では、まず上州・蚕糸業が古代から存在し現在まで続いていることを史実として確認する。その上で、第三章で巨視的分析として、各時代の主な交通と絹流通構造を整理する。これを踏まえ、第四章で微視的分析として、民家・集落における蚕糸業と絹流通の関係を整理する。そして、第五章で各時代の要素を重ね合わせることで考察を行い、上州蚕糸業と絹流通構造から古代社会の連続を考察し、明らかにすることを試みる。

本論文は古代社会や蚕糸業の全般について論じるものではなく、ある一つの事例により述べるものである。

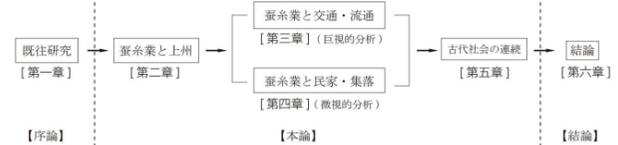


図1 本論文のダイアグラム

【序論】

第二章 蚕糸業と上州

本章では、『日本蚕糸業史』(註3)『上州蚕糸業史』(註4)などの文献資料を確認することで、上州・蚕糸業が古代から続いてきたものであることを確認する。

上州は、かつて東国-毛野国-上毛野国-上野国と言われていた地域であり、古代において豪族による大きな権力が存在した。日本における蚕糸業伝来は、弥生時代中期頃とされ、『日本書紀』(註5)『古事記』(註6)『魏志倭人伝』(註7)に記載があることから古くから存在していたことが確認できる。上州における蚕糸業は朝鮮半島からの帰化人により及ぼされたと考えられ、早い時期から蚕糸技術があったとされている。また、蚕糸業において各時代で絹流通が行なわれていた。

つまり、上州・蚕糸業が古代から続いていることと蚕糸業において絹流通が重要であることが確認できた。

第三章 蚕糸業と交通・流通

本章では、前章により蚕糸業と絹流通を各時代の交通・流通を通して、巨視的に分析する。

■古代-古代の街道として五畿七道(註8)の東山道、絹流通として御厨(註9)により、分析・考察を行なう。

■中世-中世の街道として鎌倉街道上道により、分析・

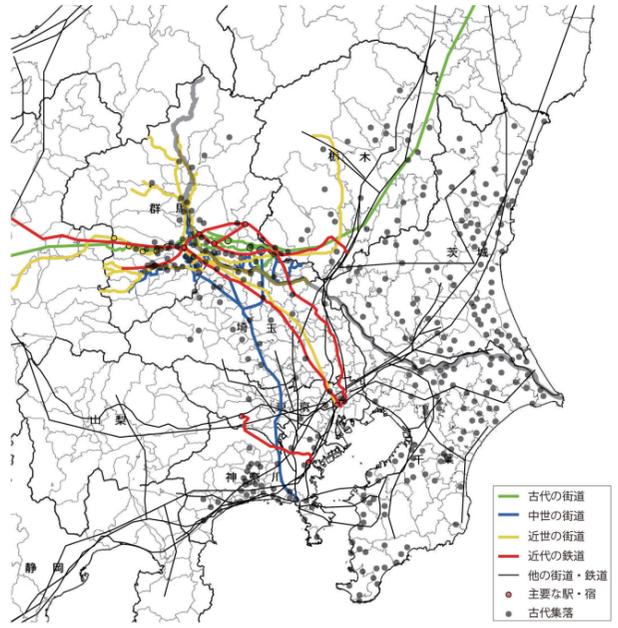


図2 各時代の街道と古代集落を重ね合わせた図

2014. 11. 12

卒業論文発表会

中谷礼仁研究室

持続的環境・建築物群継承地区<千年村>研究ゼミ

1X11A080-0 神保洋平

考察を行なう。

■近世-近世の街道として中山道・三国街道・日光例幣使街道・下仁田道・利根川の水運、絹流通として絹市により、分析・考察を行う。

■近代-近代の鉄道として高崎線・信越線・両毛線・上野鉄道・東武伊勢崎線・上毛線・横浜線、絹流通として絹市と鉄道駅により、分析・考察を行う。

これらを整理した上で、各時代の要素と古代集落を重ね合わせる。これにより、絹流通は重なり合い、古代が連続していることと、流通に古代集落が集中しており、古代集落は絹流通でつながっていたことが確認できた。つまり、古代集落と古代集落は、絹流通により結ばれ、それは形を変えて現在にも存在することが確認できた。

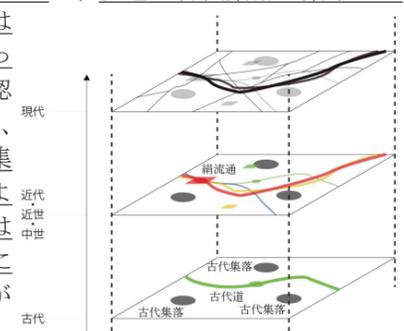


図3 交通・流通が重なり合うダイアグラム

第四章 蚕糸業と民家・集落

本章では、前章の絹流通を踏まえ、民家・集落における蚕糸業を微視的に分析する。

■高山社跡

換気と温湿度管理をきめ細かく行う「清温育」を確立し、その普及のために設立された。

■田島弥平旧宅

痛風を重視した「清涼育」を確立した場所で、『養蚕新論』『続養蚕新論』を著し、ここで開発された養蚕民家の形式は全国へ広まった。

このふたつの絹産業遺産は古代集落が比定されている領域の中にある

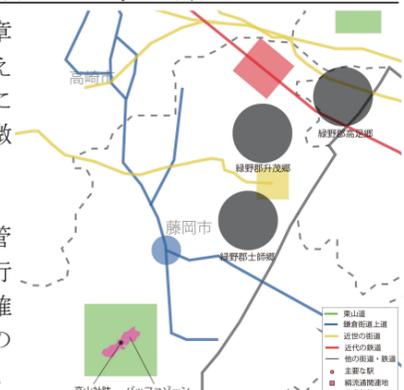


図4 藤岡市高山における各時代の街道と古代集落を重ね合わせた図



図5 伊勢崎市境島村における各時代の街道と古代集落を重ね合わせた図

わけではないが、その付近には古代集落が存在していたと考えられている地域が多く存在する。また、前章の各時代の主な交通や絹流通が付近に存在していたと考えられる。そして、これらの地の付近では古くから蚕糸業が営まれていたことが確認できた。

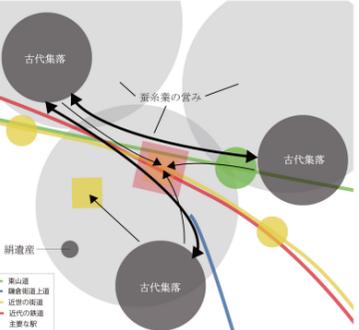


図6 古代集落と古代集落が蚕糸業によってつながり合うダイアグラム

これらのことより、古代集落は蚕糸業と密接に関係していた絹流通を通して、他の集落・地域とつながっていて、これは古代から現代まで続いていることが確認できた。つまり、上州の古代集落は閉塞的ではなく、蚕糸業を通してつながり合い続けていたことが確認できた。

第五章 考察・古代社会の連続

本章では、第二章を踏まえ、第三章で考察した巨視的分析と第四章で考察した微視的分析をまとめ、さらに考察する。

第三章の巨視的分析から、各時代の交通は重なり合い現代に続いていることと、絹流通を通して古代集落は他の地域とつながっていることが確認できた。つまり、絹流通とそれを継承する交通は古代集落と古代集落を古代集落と他の地域を直接的につなぎ続けている。

また、蚕糸業は専門的ではなく、農業や酪農とともに副業的に行なわれてきた。そして、蚕糸業の衰退後は、農業や酪農に推移した。これと第四章の微視的分析から、蚕糸業は副業的な産業として、古代集落の生活基盤と古代集落の生活基盤を間接的につなぎ続けていた。

【結論】第六章 結論

本研究では、上州蚕糸業と絹流通構造を事例として、近代産業から古代集落と現代都市から古代集落をみることにより、古代から現代が蚕糸業と絹流通を通して連続していることが確認できた。つまり、蚕糸業と絹流通をあるひとつの事例として古代社会が連続していることが明らかになった。

注釈：註1 平安時代中期に作られた辞書である。承平年間(931年-938年)、勤子内親王の求めに応じて源順(みなもとのしたごう)が編纂した。 註2 庄子幸佑『現代日本に於ける古代社会の影響に関する理論的研究-古代地名の現在地比定の分析を元に-』(早稲田大学中谷礼仁研究室修士論文,2013) 註3『日本蚕糸業史』(大日本蚕糸会,1935-1936) 註4『群馬県蚕糸業史』(群馬県蚕糸業協会,1955) 註5 奈良時代に成立した日本の歴史書。日本に伝存する最古の国家により公式に編纂された歴史書。 註6 712年(和銅5年)に太朝臣安萬侶(おほのあそみやすまる)(太安万侶とも表記)が編纂し、元明天皇に献上された日本最古の歴史書。 註7 中国の歴史書『三国志』中の「魏書」。当時、日本列島にいた民族・住民の倭人(日本人)の習俗や地理などについて書かれている。 註8 七道。古代日本の律令制における、広域地方行政区画である。 註9 皇室や伊勢神宮の神饌*を地方から出させるある種の指定神領域の狂園。 / 図版出典：図1~6筆者作成

古代社会の連続

近代産業からみる古代集落と現代都市からみる古代道

—上州蚕糸業と絹流通構造を事例として—

目次構成

【序論】

第一章 本研究について

- 1-1. はじめに
- 1-2. 研究背景
- 1-3. 研究目的
- 1-4. 研究方法
- 1-5. 既往研究
 - 1-5-1. 本論文全体にわたる既往研究
 - 1-5-2. 蚕糸業と上州に関する既往研究
 - 1-5-3. 蚕糸業と交通・流通に関する既往研究
 - 1-5-4. 蚕糸業と民家・集落に関する既往研究
- 1-6. 本研究の位置づけ

【本論】

第二章 蚕糸業と上州

- 2-1. はじめに
- 2-2. 利根川上流における古代社会の影響
- 2-3. 上州について
 - 2-3-1. 地勢
 - 2-3-2. 歴史
- 2-4. 蚕糸業について
 - 2-4-1. 日本の蚕糸業
 - 2-4-2. 日本蚕糸業の歴史
 - 2-4-3. 上州の蚕糸業
 - 2-4-4. 上州蚕糸業の歴史
- 2-5. 小結

第三章 蚕糸業と交通

- 3-1. はじめに
- 3-2. 関東地方における古代集落の存在
- 3-3. 絹流通と街道・鉄道
 - 3-3-1. 古代の街道と絹流通
 - 3-3-1-1. 古代の街道
 - 3-3-1-2. 古代の絹流通
 - 3-3-1-3. 古代における街道・絹流通と古代集落
 - 3-3-2. 中世の街道と絹流通
 - 3-3-2-1. 中世の街道
 - 3-3-2-2. 中世の絹流通
 - 3-3-2-3. 中世における街道・絹流通と古代集落
 - 3-3-3. 近世の街道と絹流通
 - 3-3-3-1. 近世の街道
 - 3-3-3-2. 近世の絹流通
 - 3-3-3-3. 近世における街道・絹流通と古代集落
 - 3-3-4. 近代の鉄道と絹流通
 - 3-3-4-1. 近代の鉄道
 - 3-3-4-2. 近代の絹流通
 - 3-3-4-3. 近代における街道・絹流通と古代集落
- 3-4. 現代都市と古代道の関係
- 3-5. 小結

第四章 蚕糸業と民家・集落

- 4-1. はじめに
- 4-2. 利根川流域における古代集落の存在
- 4-3. 絹産業に関する史跡と古代集落
- 4-4. 養蚕民家と古代集落
 - 4-4-1. 事例1 高山社跡と古代集落
 - 4-4-1-1. 高山社跡
 - 4-4-1-2. 藤岡市高山
 - 4-4-1-3. 藤岡市高山と古代集落
 - 4-4-1-4. 藤岡市高山の古代集落と蚕糸業
 - 4-4-2. 事例2 田島弥平旧宅と古代集落
 - 4-4-2-1. 田島弥平旧宅
 - 4-4-2-2. 伊勢崎市境島村
 - 4-4-2-3. 伊勢崎市境島村と古代集落
 - 4-4-2-4. 伊勢崎市境島村の古代集落と蚕糸業
- 4-5. 近代産業と古代集落の関係
- 4-6. 小結

第五章 考察・古代社会の連続

- 5-1. はじめに
- 5-2. 現代都市からみる古代道
- 5-3. 近代産業からみる古代集落
- 5-4. 古代社会の連続
- 5-5. 小結

【結論】

第六章 結論

あとがき
謝辞
参考文献
図版出典
巻末資料